

第3次岩手隊、リハビリ支援チーム、組合員訪問チームが9日大船渡へ向かいました！

医療支援（第3次岩手隊）として、小児科の蒔苗剛医師・3病棟の浅沼優看護師（～11日まで）、リハビリ支援として、リハビリテーション科藤原宏太OT・岩淵望OT（～10日まで）、現地事務局として医事課の田中久仁雄さん（～15日）が9日現地へ向かいました。また、9日は大船渡地域の組合員訪問を実施しました。遠藤副理事長、中村理事、小笠原理事、小田島さん（さわやかさん編集委員）、佐藤専務理事、佐々木組織部長、組織部の川口さん、千田さんが参加しました。

大船渡地域、医療生協組合員訪問を実施！

4月9日（土）大船渡市の医療生協組合員の訪問行動を実施、8人が3グループに分かれ39件を訪問、お米、歯ブラシ、ティッシュ、果物などを届けました。「盛岡からわざわざ、ありがとうございます」といった感謝の声が聞かれました。また、逆に激励され、稲荷寿司を頂いたお宅もありました。

訪問には急遽、医療福祉生協連の藤谷専務理事一行が加わり一緒に訪問行動をするという一幕もありました。



頂いた稲荷寿司

訪問行動の中で聞いた話を紹介します。

一日、米一合で

ももとは妻と2人で暮らしていたが、この被害で仕事もなくなり、妻は千葉にいる娘夫婦のもとへ引っ越してしまった。米一合を3回に分けて食べている。とにかく、お金が欲しい。

スーパーハウスで生活、今後は不安

津波のとき、母親と孫娘2人がかろうじて逃げて助かった。自宅は残ったが2階まで浸水し、壊されることになった。避難所に入ることも出来ず、スーパーハウスで生活している。

母親は施設に頼むことができたが、家が出来るまでどうやって生活していけばいいのか不安だ。お見舞いで頂いた物資はとてもありがたい。



医療生協のジャンパーと腕章で訪問



藤谷専務理事から挨拶を受ける

他県の民医連からも医療支援が！

全日本民医連からの、『北海道と青森・秋田県連は岩手への支援を！』の呼びかけを受け、継続的な医療支援が続いています。北海道民医連からは、医師2名、看護師3名、CW2名、事務1名のチームが6泊7日の日程で継続的に支援に。青森民医連からは、毎週月～水。秋田民医連からは、毎週木・金に支援に入る予定になっています。